

バラスト水処理装置の開発とその賢い運用に関する講演会

— G2、G8 および G9 への対応と国内外処理装置の最新情報 —

1. 日 時：平成 23 年 9 月 22 日（木）13：00～17：30（受け付け開始 12：30）
2. 場 所：東京都港区虎ノ門 1-15-16 海洋船舶ビル 10 階ホール
3. 講 師：大坪 新一郎 国土交通省 海事局 船舶産業課 国際業務室長
大村 卓朗 東京大学 アジア生物資源環境研究センター特任助教
華山 伸一 海洋政策研究財団 海技研究グループ

パネルディスカッション参加予定者（敬称略）

ファシリテーター 福代 康夫 東京大学 アジア生物資源環境研究センター センター長、教授

パネリスト 前掲の講師

Mike Lee ElectroClean system 開発社 TECHCROSS

岡本 幸彦 JFE BallastACE 開発社 JFE エンジニアリング株式会社

沼田 好晴 Hitachi ClearBallast 開発社 株式会社日立プラントテクノロジー

プログラム

1. 開 会 13:00

2. 第一部 最新状況の紹介(13:10-14:10)

① IMO における議論の最新状況 海事局船舶産業課 国際業務室 大坪 新一郎

IMO において、BWMS の普及状況や処理技術の信頼性などについて review group が設置されており、議論が行われている。その内容について紹介する。さらに、PSC におけるサンプリングについては、BLG16(2012 年 1 月)にガイダンスを最終化するべくその方法論だけではなく、PSC 時のサンプリングに至るまでの手順についても議論されており、その概要について紹介する(30 分)。

② BWMS を巡る最新状況 OPRF 華山 伸一

最近、G8、G9 に定められた性能基準とは別に、BWMS に上乘せあるいは追加の性能が要求される場合がある。その具体例として、米国における将来のバラスト水規制への対応と、バラストタンク内塗装 (PSPC) に対する影響評価について解説する(30 分)。

3. 休憩 14:10-14:20

4. 第二部 各種試験方法及びレポート作成についての解説(14:20-16:00)

③ G8 efficacy 試験の具体的方法 東京大学 大村 卓朗

G8 に定められた生物試験方法は、国内においては 3 年前に日本語の実施マニュアルが作成されている。その後各国においては、サンプリング法、染色法について多くの新規方法が提案実施され、また G9 における毒性試験との組み合わせなど、多くの考慮すべき技術的要目が追加され、ドイツなど一部の国ではマニュアル化されている。このような G8 における生物試験の精度向上に繋がる追加的な最新の情報を紹介する(50 分)。

④ G9 毒性試験および assessment report の作成方法 OPRF 華山 伸一

基本承認についての assessment report については、我が国の事業者も内容を把握した上で作成しており、かつ GESAMP BWWG も多くの申請ケースで承認を推奨している。他方、最終承認については、たとえば最大許容排出濃度の考え方やその技術的な担保について、十分に把握し適切なデータを提出できず、不承認が推奨されるケースも多く見られる。毒性試験の精度向上に必要な技術的要件と assessment report 作成の考え方について解説する(50 分)。

5. 休憩 16:00-16:20

6. 第三部 パネルディスカッション(16:20-17:20)

⑤ パネルディスカッション ファシリテーター：東京大学 福代康夫

国内外の代表的な BWMS について、第一部で紹介した最新の動きにどのように対応しているのか、各メーカーのポジションを伺う。さらに、今後のバラスト水処理方法のあり方、US の新しく提案された国内規制値に適合するための処理技術のあり方について総合討論を行う。

パネリスト：講師に加え、TECHCROS、J F E エンジニアリング株式会社、株式会社日立プラントテクノロジーのバラスト水処理装置メーカー 3 社からの代表者

・質疑応答

7. 閉会 17:30

注：プログラムについては予告無く変更する場合がありますのでご了承下さい。